彙報

昭和四十一年三月末日をもって二人の本学哲学科の教官が停年退官され、ともに名誉教授になられた。

退官に先き立ち、恒例の退官記念講演（公開）が行なわれ、両教授は積年の研究成果の一端をそれぞれ講ぜられ聴衆は深い感銘を受けた。すなわち島芳夫（倫理学）教授は『自由、運命、摂理』と題して、一月二十日（木）午後三時から五時まで、本学文学部第一講義室において二時間にわたり講演され、終了後、楽友会館で開かれた同教授を惜別する記念晩餐会に出席された。

島教授の同講演は、本誌第五〇七号に収録される予定である。

つづいて高田三郎（中世哲学史）教授は一月二十五日（火）午後三時から六時まで、予定の時間をこえ三時間にわたって、『トマス・アクイナスとアリストテレス形而上学』と題し、トマスによりアリストテレスがどのように捉えられたか、アリストテレスがトマスにどのような影響を与えどのような痕跡を残したかについて詳細に論じられた。すなわち、アリストテレスの哲学の内部の問題から説きおこし、存在の観念の解釈をめぐって、トマスとアリストテレスの相違がどのようなものであるかを明らかにしようとされた。講演終了後は楽友会館で同教授を囲み記念晩餐会が催された。

高田教授の講演も近く本誌に発表していただく予定である。

哲学研究総目次凡例

一、目次は、『哲学研究』各巻最終冊附載の目次を基準として、収録したが、中には各巻の本文を参照して補正乃至削除したものもある。

一、論文と見做されうるものと、然らざるものとの区別はせず、目次はすべて同一様式の下に収録した。

一、『哲学研究』各巻本文の頁付けには、往々にして誤りが見られたが、目次の頁指示はそのままを踏襲するほかなかった。各冊別の頁付けと各巻毎の通し頁付けとを併記したから、本文を一方のみで検出し得ない場合は他方を参照せられたい。

一、この総目次に於ては——

（未完）は、次巻以降に継載せられるものを、

（承前）は、（未完）を承けて、完結、乃至未完結のまま中絶するものを、

（承前・未完）は、（未完）を承けて、なほ完結せず、更に次巻以降に継載されるものを、

表示し、『哲学研究』に於て慣用せられて来たこれらの文字の用法とは、必ずしも相蔽わない。

一、索引の部の人名の読み方は表音式によった。また漢数字は巻を、括弧のないアラビア数字はその巻における冊番号を、丸括弧に包まれたアラビア数字は通算の号数を表わし、冊番号および号数につけられているアステリスクはそのアーチクルが翻訳であることを示している。

一、索引の作成に当って加茂直樹、土屋純一および哲学専攻の大学院学生諸君の協力を得た。記して感謝の意を表したい。